

モンゴル国

つて、どんな国？

【前編】

伊豆の国市は、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に参加するモンゴル国柔道ナショナルチームのホストタウンとなっています。この機会に、国際交流員のジャルガルが、魅力あふれる母国モンゴルの自然や文化を2回にわたり紹介します。

市長公室
☎055(948)1431



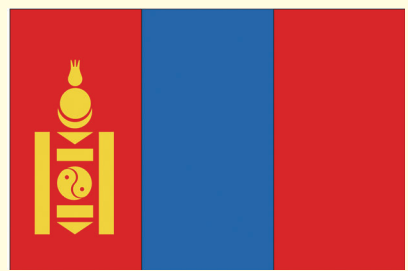
テレルジ国立公園



近代的な建物が立ち並ぶ首都ウランバートル



ブフ(モンゴル相撲)



モンゴル国旗

モンゴルの国旗は、赤・青・赤の順で、赤色は勝利と歓喜を、青色は不変の空と忠誠と献身を表わします。左側の赤地にある黄色の部分には、伝統あるシンボルでもあるソヨンボ文字の「A」。

それぞれの図形は上から炎(過去・現在・未来)、太陽と月(国の永遠なる繁栄)、槍と矢じり(敵の制圧)、巴形(警戒心)、左右の長い長方形は国民の団結心の象徴とされています。

【ソヨンボ文字】モンゴル語を表記するために、1686年に僧侶ボグド・ザナバザル(ジャブザンダンバ1世)が作成した文字。

高原の内陸国

ロシア、中国の2カ国と国境を接し、標高1,000〜1,500mの高原からなる内陸国です。国土の多くはステップ(草原地帯)が広がり、南部はゴビ砂漠、西部は4,000mを超すアルタイ山脈が連なっています。

首都ウランバートル

面積1,359km²で、モンゴル国総人口の約2分の1に当たる約153万人(令和2年)が居住しています。市の
首都：ウランバートル(赤い英雄という意味)
言語：モンゴル語(国家公用語)、カザフ語
民族：モンゴル人(全体の95%)、カザフ人など
宗教：チベット仏教、イスラム教など
面積：156万4,100km²
人口：329万6,866人(2019年統計)
通貨：トゥグルグ(MNT)



ロシアと中国に国境を接するモンゴル

歴史は1639年のラマ教寺院の建立に始まり、2021年で382周年を迎えます。四方を山に囲まれた盆地で、標高1,351m、平均気温は7月17.0度、1月氷点下26.1度で、年平均降水量233mmの大部分が夏に集中します。近代的高層住宅や工場と伝統的移動式住居ゲルが共存する草原の中大都市です。

夏の祭典ナーダム&モンゴルの伝統スポーツ

「ナーダム」とはモンゴル語で「祭り」という意味です。国のナーダム祭は毎年、革命記念日である7月11日から3日間開催されています。開会式は伝統民族楽器の馬頭琴演奏や民族舞踊などの披露もあり、華やかな雰囲気で行われます。ブフ(モンゴル相撲)、競馬、弓射の三大競技が開催されますが、近年はこれら三大競技に並ぶ伝統的なスポーツとされているシャガイハルワーが公式ルールでナーダム祭種目の一つとなっています。羊やヤギのくるぶしの骨をはじいて的に当てて遊ぶシャガイハルワーは、2014年にユネスコの無形文化遺産に登録されています。

ウランバートルで行われている国のナーダム祭には各地から選手が集まり、モンゴル最大規模の大会が開催されます。各地方でも、ナーダム祭は開催されています。

このような伝統があることから、モンゴルの選手がオリンピック競技で、レスリング、柔道、射撃で好成績を収めています。2月号は、伝統音楽や食文化などについて紹介します。



ナーダム祭の弓射(左)と乗馬(上)



シャガイハルワー



ホストタウンとは？

日本の自治体と2020東京オリンピック・パラリンピック競技大会に参加する国や地域が、スポーツ、文化、経済など多様な分野の交流を通じ、地域の活性化に生かし、東京大会を超えた末長い交流を実現することを目的とした取り組みです。

2020年10月30日現在、登録する自治体数は507となり、受け入れる相手国・地域数も179となっています。

伊豆の国市は、モンゴル国ウランバートル市ソングノハイラン区と都市交流を行っていることがきっかけで、2015年8月にモンゴル国と東京2020オリンピック・パラリンピック柔道競技

の事前キャンプに関する覚書を締結。国が推進するホストタウン登録を行い、モンゴル国のホストタウンとなりました。

多くの交流で絆を深めて

モンゴル国柔道ナショナルチームとの交流は、2017年度から日本国内で行われる国際大会の際、伊豆の国市で強化合宿を行うほか、市内で行われる少年柔道錬成大会への参加や学校訪問などを行っています。少年柔道錬成大会では、モンゴル国柔道ナショナルチームと大会に出場する県内外の小学生在と一緒に稽古を行うなど、貴重な体験となりました。

また、2019年度は長岡中学校を訪問し、バレーボールを通じてスポーツ交流のほか、着物や甲冑の着用体験で日本の伝統文化にも触れました。モンゴル柔道アカデミー小学生との交流少年柔道錬成大会に出場し、市内柔道スポーツ少年団と一緒に稽古を行いました。このほか、大仁小学校を訪問しプログラミングなどに挑戦し、大仁小学校の生徒と交流するなど、絆を深めてきました。



2019年 伊豆の国市少年柔道錬成大会で